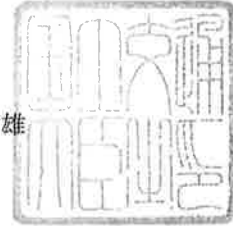


認定書

国住指第80号
平成 17年 5月 18日

日鐵建材工業株式会社
代表取締役社長 小山 巖 様

国土交通大臣 北側 一雄



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項(同法第88条第1項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法第2条第七号並びに同法施行令第107条第一号及び第二号(床:各1時間)の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP060FL-0032
2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称
コンクリート・デッキプレート造床(合成スラブ、単純支持)
3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容
別添の通り

(注意)この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名：
コンクリート・デッキプレート造床(合成スラブ、単純支持)

2. 申請仕様の寸法：
申請仕様の寸法を表1に示す。

表1 申請仕様の寸法

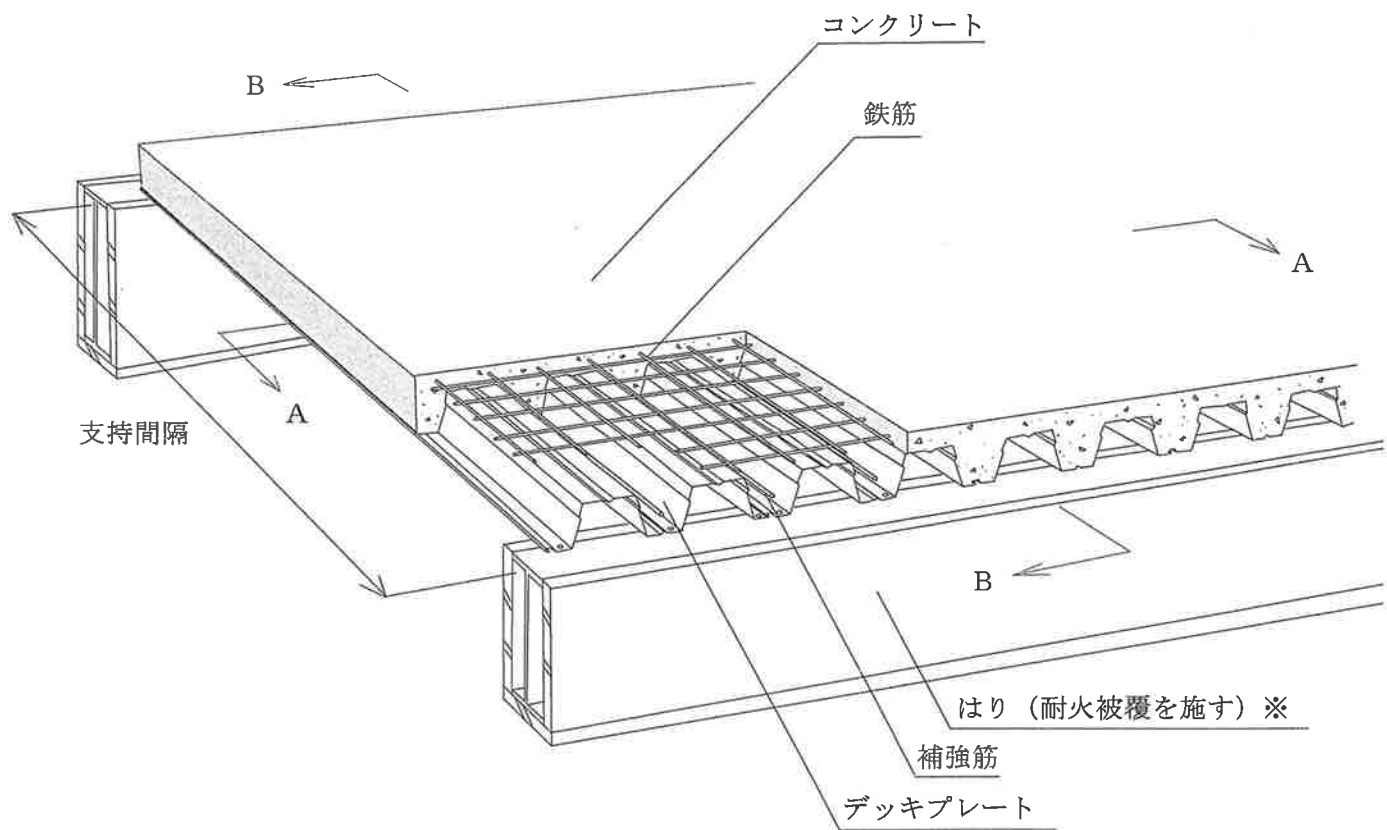
項目	申請仕様
支持間隔	構造計算等によって構造安全性が確かめられた寸法
床厚 (d)	180～220mm

3. 申請仕様の構成材料
申請仕様の構成材料を表2に示す。

表2 申請仕様の構成材料

項目	申請仕様
デッキプレート	材料：デッキプレート (JIS G 3352) 材質：SDP1T、SDP1TG、SDP2、SDP2G、SDP3 厚さ：1.0～1.6mm 山高さ：120±1.5mm 有効幅：600mm (+8, -2mm)
コンクリート	材料：レディミクストコンクリート (JIS A 5308) 種類：普通コンクリート 設計基準強度：18～36 N/mm ² 厚さ：デッキプレート山上から60～100mm
鉄筋(上端筋)	材料：(1)又は(2) (1)溶接金網 規格：溶接金網及び鉄筋格子 (JIS G 3551) 断面寸法：線径6mm以上 網目寸法：150×150mm以下 (2)異形鉄筋：1)又は2) 1)鉄筋コンクリート用棒鋼 (JIS G 3112) 2)鉄筋コンクリート用再生棒鋼 (JIS G 3117) 断面寸法：呼び名 D10以上 間隔：200×200mm以下 かぶり厚さ：床板上面から30mm以上
補強筋(下端筋)	材料：異形鉄筋(1)又は(2) (1)鉄筋コンクリート用棒鋼 (JIS G 3112) (2)鉄筋コンクリート用再生棒鋼 (JIS G 3117) 断面寸法：呼び名 D13以上 間隔：300mm以下 (各溝) かぶり厚さ：床板下面から45mm以上

4. 申請仕様の構造説明図
申請仕様の構造説明図を図1～図3に示す。

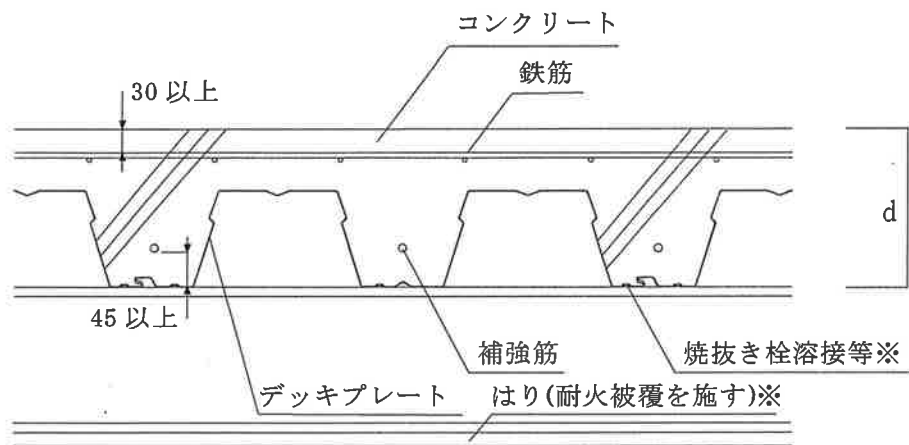


※：評価対象外

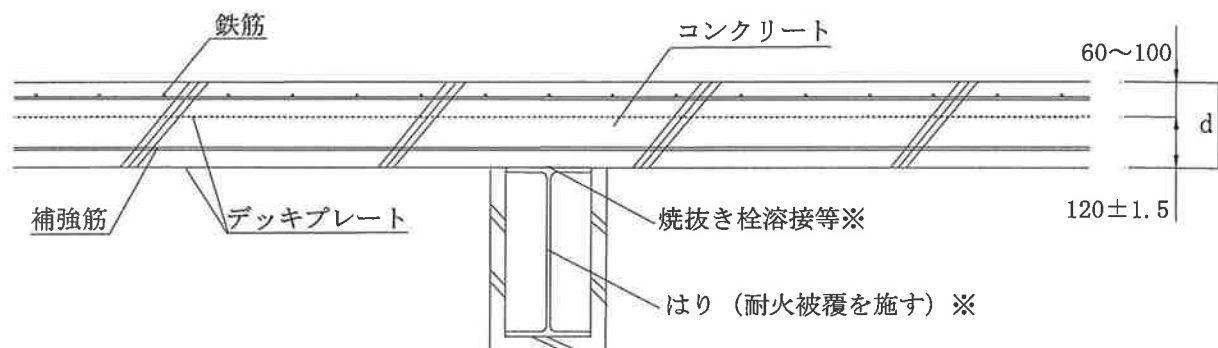
透視図

図1 構造説明図

単位 mm



A-A断面図

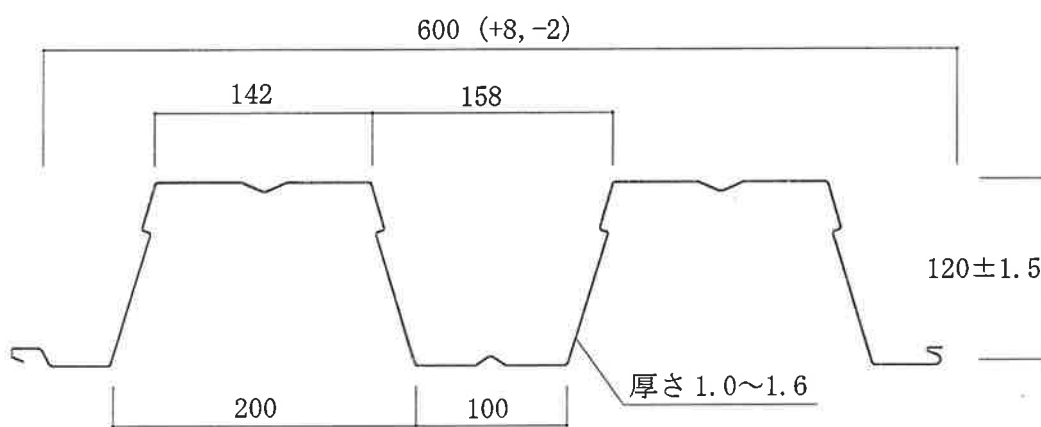


B-B断面図

※：評価対象外

図2 構造説明図

単位 mm



デッキプレートの形状・寸法

図3 構造説明図

5. 施工方法

施工図を図4に示す。
施工は以下の手順で行う。

施工は、(社)日本鉄鋼連盟「デッキプレート床構造設計・施工規準-2004」による。

(1) デッキプレートの敷込み

敷込み作業は割付け図に従って、あらかじめ墨出しを行う。

敷込み位置は正しく不陸の生じないように注意して敷込む。

(2) 床スラブと支持部材(鉄骨はり)との接合

床スラブと鉄骨はりとは、焼抜き栓溶接、打込み鉋、頭付きスタッド、すみ肉溶接又はプラグ溶接で結合する。

デッキプレートと鉄骨はりとは、焼抜き栓溶接、打込みびょう、すみ肉溶接またはプラグ溶接で接合するか、頭付きスタッドを用いる場合は頭付きスタッドの施工前に、すみ肉溶接あるいはアークスポット溶接等で接合する。

(3) 補強筋(下端筋：耐火補強筋)

デッキプレートの溝部の所定の位置に鉄筋(耐火補強筋)を配する。

(4) 鉄筋(上端筋：ひび割れ拡大防止用鉄筋)

コンクリートのひび割れ拡大防止のために、所定の位置に溶接金網又は異形鉄筋を配する。

(5) コンクリート打設

補強筋及び鉄筋が移動しないようスペーサー(材料：①又は②)を用いて、鉄筋及び補強筋のかぶり厚さを確保出来るよう注意しながらコンクリートを不陸なく打設する。

(材料：①鉄線

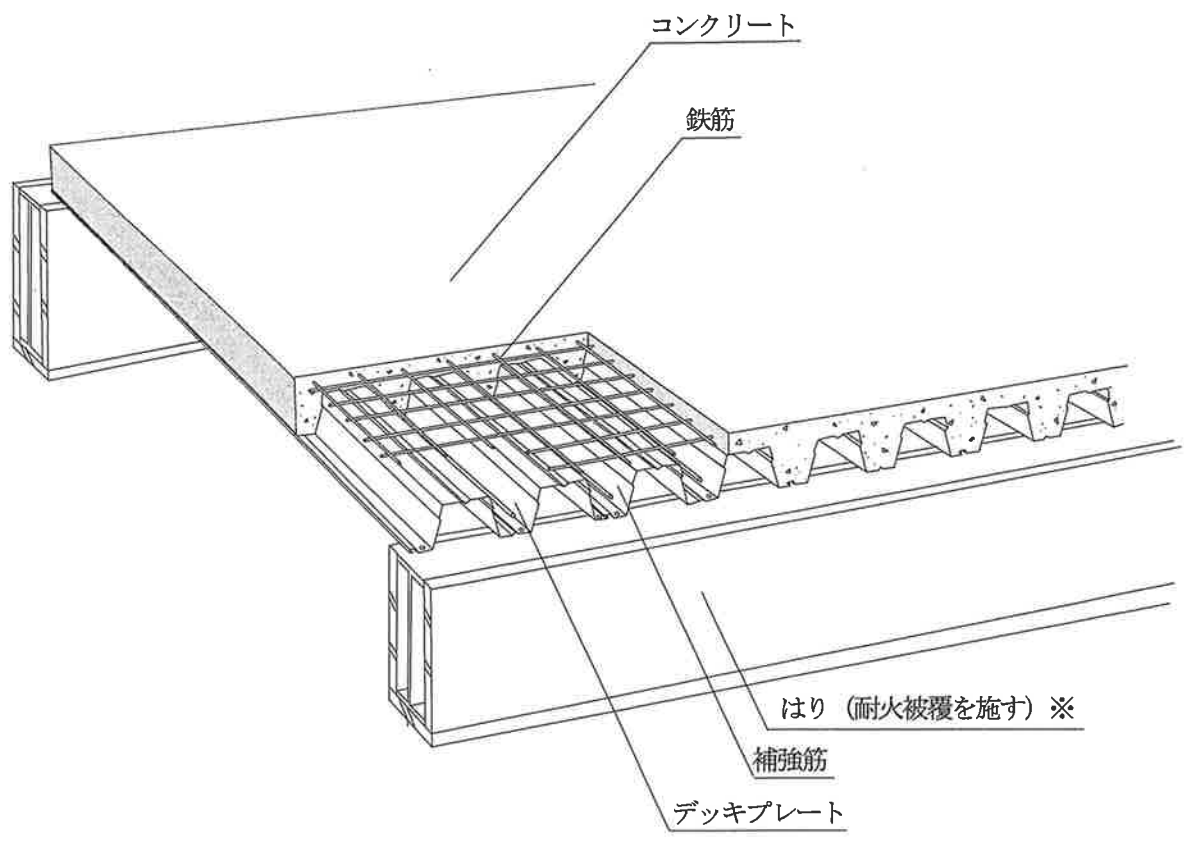
線径：4mm以上、間隔：1000mm以下

②セメントモルタルのブロック状

寸法：40×25×20mm以上、間隔：1000mm以下)

(6) 養生

コンクリート打設後、十分な強度が得られるまでの期間、有害な影響を受けないようにコンクリートを十分保護する。



※：評価対象外

図4 施工図